

修士論文(要旨)
2017年1月

発達障害者の就労に必要な支援に関する研究

指導 森和代教授

心理学研究科
健康心理学専攻
215J4052
酒井康衣

Master's Thesis (Abstract)
January 2017

A Study of the Support Necessary for the Employment of People with Developmental Disabilities

Yasue Sakai
215J4052
Master's Program in Health Psychology
Graduate School of Psychology
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Kazuyo Mori

目次

第1章 発達障害の定義	1
1)発達障害とは	1
2)DSM-5による変化	1
3)アスペルガー症候群の就労や日常生活における影響について	3
第2章 発達障害者の発達段階における支援について	5
1)幼児期の支援	5
2)児童期の支援	5
3)思春期の支援	5
4)青年期の支援	6
5)発達段階における支援	7
第3章 発達障害者の就労について	9
1)発達障害者支援センターに訪れる人とは	9
2)障害者の雇用について	10
3)障害雇用状況	10
i)障害者雇用状況の実態	10
ii)平成24年度の産業別の障害者の職業状況および職業別の就職状況	12
4)障害者雇用のメリットとデメリット	14
5)発達障害者の離職理由	14
第4章 発達障害者の就労による困難について	16
1)就労前の困難について	16
2)就労後の困難について	16
第5章 発達障害者の就労支援のあり方について	17
1)就労前の支援について	17
2)就労後の支援について	18
3)発達障害者への支援プログラム:TTAPについて	18
4)発達障害者への就労支援への取り組み事例	19
5)発達障害を持たない学生の就職活動の状況	21
6)発達障害を持たない学生の離職状況	25
第6章 調査研究	27
1)本研究の目的	27
2)方法	27
i)調査対象者	27
ii)調査時期	27
iii)調査手続き	28
iv)倫理的配慮	30
v)分析方法	30
第7章 結果	31
1)回答の分類	31
i)就労前の問題	31
ii)就労後の状況	32
iii)就労に関わるサポート	33
iv)就労後ポジティブな変化	33
v)その他	34
2)発達障害者の就労継続の流れについて	48
i)就労前の流れ	48
ii)就労後の流れ	48
第8章 考察	50
1)就労前について	50
2)就労後のネガティブな側面について	51
3)就労によるポジティブな側面	52
4)本研究の限界と今後の課題について	53
引用文献	55
参考文献	59

1) 問題・目的

発達障害者の就労はさまざまな困難を伴い、発達障害をもつ学生の支援は教育機関の大きな課題である。本研究は発達障害者を対象にして、就労の困難についてインタビューを実施しカテゴリーごとに分けて分析を行い、その内容を明らかにすることを主たる目的とした。

対象者 機縁法によって依頼した発達障害者 8 人を対象とした。対象者は医療機関を受診して自閉症スペクトラムの診断を受けた者とした。平均年齢は 25.87 歳であった。

方法 インタビューガイドに基づいて、研究担当者が半構造化面接を実施した。面接に要した時間はおよそ 30 分から 60 分程度であった。

2)結果

インタビューガイドに沿って実施した面接を録音し、逐語録を起こした。逐語録から主要なセンテンスを抽出し、心理学研究者 3 名で協議し 428 項目の下位カテゴリー(「」により表記)、63 項目の中位カテゴリー(『』により表記)、11 項目の上位カテゴリー(【】により表記)を生成した。

就労決定までの流れとしては(図 1 参照)、まず『就活への努力』など【就労の準備】にとりかかる。ターゲットを決めるためには、『仕事で重視すること』などの【仕事の価値観】や『マッチング』など【仕事をする動機】が影響する。具体的な就活を始めるが『面接の困難』など【就活の困難】に直面することが示される。困難を乗り越えるに『自己理解のアドバイス』など【就活で大事なこと】に取り組み就労決定に至ることが示された。

就労後から就労継続の流れとしては、まず『仕事の判断の難しさ』などの【判断の難しさ】や『コミュニケーションの困難』など【対人関係の困難】が見られ、『仕事の負担』など【就労の困難】に影響している。【就労の困難】により、『メンタル不調』などの【就労によるネガティブ反応】が生まれるが、本人の『障害の葛藤』や『障害の受容』といった【障害の受け止め】や困難から乗り越えるために『一般的なサポート』などの【サポート】を受けることによって、仕事に対しての『目標』や『嬉しい』などの【就労によるポジティブな側面】に影響している。【就労によるポジティブな側面】が生まれることで『適応する工夫』や『ストレス発散』などの【生活の調整】が生まれ、就労継続に至ることが示された。

3)考察

本研究では就労の準備をしていたにも関わらず、就職活動の困難さが見られた。特に面接の困難が多く見られた。松村(2014)が述べていたように「②面接でほとんど話せないまた意図を読めない対応をしてしまう③グループ面接で協力的行動がとれない④エントリーシートが書けない」といった困難が本研究でも見られた。就労後ではさまざまな困難が見られた。国立特別支援教育総合研究所(2007)が述べていたように「対人関係が主体の仕事や臨機応変が必要な仕事は困難」があり、本研究のインタビューでも同じ結果であった。一方で就労によるポジティブな側面が確認できた。就労によるポジティブな側面の中で中位カテゴリーの目標が多く見られた。宋他 (2015)は「他者の意見に従順となり、自分で判断し、選択する経験が少ない」と述べている。つまり、就労することにより資格を取りたいなどの目標を、自己決定することは当事者に大きな意味を持つのではないだろうか。従って、発達障害学生自身が自分の意思で主体的に「自己決定」をしていく力を身に着け、自分で意思決定し選択していくプロセスが重要である(宋他,2015)。

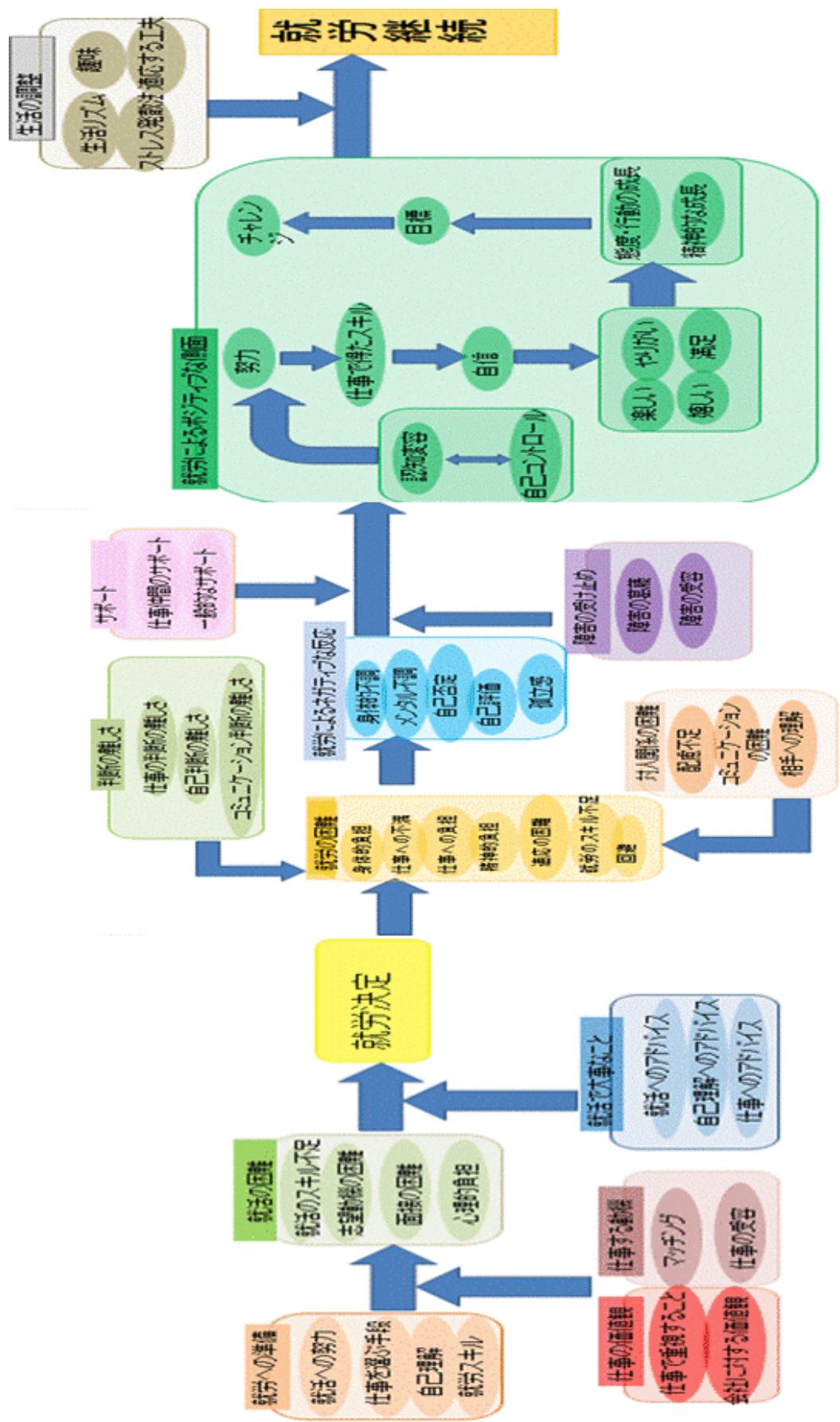


図 1. 発達障害者の就業継続の流れ

主な引用文献

- 藤堂栄子・木村志義・前田豊・池田真砂子・松村洋一・金田弘幸(2013). 発達障害者の中小企業への就労 日本LD学会第22回大会発表論文集 Pp.286-287
- 橋本創一・熊谷亮・田口禎子・霜田・爲川雄二(2013).発達障害児の学校不適応を評価する新たなアセスメント法 ASIST 学校適応プロフィールの開発と適応 一般社団法人 LD学会 第22回大会 発表論文集 自主シンポジウム Pp.234-235
- 川喜多二郎(1996). KJ法 渾沌を語らしめる 中央公論社 604pp
- 川崎真弘・北城圭一・深尾憲二郎・村井俊哉・山口陽子・船曳康子(2013).発達障害者のコミュニケーションにおけるリズム調整 電子情報通信学会技術研究書 113(73), 201-205
- 厚生労働省 「平成25年 障害者雇用状況の集計結果」 2015年4月に閲覧
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000029691.html>
- 厚生労働省 「ハローワークを通じた障害者の就職件数、3年間で過去最高を更新」 2015年5月に閲覧
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000003lock-att/2r9852000003loga.pdf>
- 厚生労働省(2012).新規大学卒業就職者の離職率状況 <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000101670.html>
2016年5月11日に閲覧
- 厚生労働省職業安定局雇用開発部障害者雇用対策課「平成26年度・障害者の職業紹介状況等」
- 黒田小夜子(2010). 決め手はジョブマッチング 梅永雄二(編) 発達障害の人の就労支援ハンドブック 自閉症スペクトラムを中心に 金剛出版 Pp.85-99
- 松村健司(2014). 発達障害の就労をめぐる 首都大学東京学生サポートセンター学生相談室 学習相談レポート, 8, 16-19
- 小川浩(2010). 発達障害者の就労支援 内山登紀夫・田中康雄・辻正次(編) 発達障害者支援の現状と未来図 中央法規出版株式会社 Pp.183-199
- 小川浩(2011). 発達障害者の職業的課題と就労支援 日本児童青年精神医学会機関誌, 52, 447-452
- 小川浩(2012).発達障害者の職業的課題と就労支援 日本児童精神医学会機関誌 52(4),447-552
- 税田慶昭(2012).地域健診と発達障害児のフォロー(特集 発達障害の見極めと対応・支援:乳児期から学童期を中心に) 教育と医学 11(713),4-11
- 志賀利一(2014).障害福祉サービスにおける就労支援の制度と実際-レジリエンスに着目して LD研究 23(4), 400-406
- 染木史緒(2012). 青年たちが自分のなりたい姿になろうと思うこと: 就労支援グループから(特集 発達障害とジェンダー/男の生き方・女の生き方と自閉症スペクトラムであること) 広汎性発達障害の明日のために, 10(3), 52-55
- 宋知潤・松久眞実・高瀬智恵・小脇 智佳子(2015).発達障害学生の就労体験における実践的研究 プール学院大学研究紀要 56, 321-333
- 鈴木慶太(2015). 民間企業での発達障害者への就労支援の取り組み 精神誌 117(3), 221-227
- 田中尚樹(2012). アスペ・エルデの会におけるここ数年の成人たちの就労状況と課題について(特集 発達障害のある人の就労をすすめるために 広汎性発達障害の明日のために) 広汎性発達障害の明日のために, 11(2), 58-63
- 梅永雄二(2016.a).発達障害者の就労支援・自閉症スペクトラム症(ASD)を中心に 教育と医学 4,4-12
- 梅永雄二(2016.b).発達障害のある大学生の就労支援の現状とこれから LD研究 25(3),321-337